



小中合同避難訓練を行いました・・・想定外に対応できるように。

1月11日(木)に小中合同の避難訓練を実施しました。今回は一部の教職員だけしか発生時間を知らない状態で、また、これまでの避難ルートに障害物がある想定で行いました。そのため、個人が最善の避難を考えて対応することが、目的となっていました。そして大事なことは振り返りで、自分の行動が最善であったか、より早く避難する方法はなかったか。声掛けや指示は適切だったか。臨機応変に最善を意識することが、場所や時間が変わっても、自分と家族とそのとき近くにいる人たちの命を守ることに繋がると思います。



《振り返りより》

- ・すぐに机の中にもぐり、すみやかにヘルメットをかぶり、外にでることができた。
- ・道が崩れて通れない想定だった。今日の道も通れなければどうしようと思った。
- ・今回通った体育館の横は狭かったので、大勢があつまるとキツイと思いました。
- ・避難するとき、少ししゃべったり歩いたりした。次からは友だちと協力しながら逃げるのが大切だと思いました。
- ・能登半島地震のように道や建物が崩れて、避難後に孤立することも避難訓練の視野に入れておくべきだと思った。
- ・今回も授業中に地震が起こったけど、休み時間でも適切な判断ができるように考えていけたらいいと思いました。
- ・最近地震が起きていて、もうそろそろ来るかもしれないと思って、一つひとつを丁寧にすることができたと思います。

東北震災の被災者、狐鼻若菜さんの講話を聴きました。

1月16日(火)夜須小学校5・6年と夜須中学生で、岩手県釜石市で東北の震災を経験した狐鼻若菜さんの講話を聴きました。当時中学生だった狐鼻さんは高台に避難しますが、このときの中学生の行動が、多くの小学生や地域の人たちの命を救うこととなり、「釜石の奇跡」として本やアニメで全国に知られることとなりました。狐鼻さんは、大学生になってから自分には体験を伝える役割があると考えようになり、多くの子どもたちに体験を話してきました。講話では釜石の『奇跡』は、偶然起こった奇跡ではなく、それまでの学習の成果であることを語っていただきました。



《感想より》

- ・ハザードマップは、ここなら大丈夫というマップではなく、最低でもここには津波がくるというマップということが分かった。
- ・ここなら大丈夫と思わず、さらに、さらに高い場所へ避難しなければならない。
- ・「釜石の奇跡」は偶然ではなく、そのとき、そこにいた人たちが、今までやってきたことを活かして、まわりのことを見ていたから起こせたことだとわかった。
- ・自分の命は自分で守る。率先避難者になる。想定を信じない。出来る限りのことをする。
- ・遠くに逃げろではなく、高い所に逃げろ。防災文化をつくってつなげる。
- ・これまでの学習より、実際に体験した人から聞くとさらに説得力が増す気がしてすごかった。恐怖も伝わった。

校長室文庫から



○博士の愛した数式 (DVD) CAST 寺尾聰 深津絵里 原作：小川洋子

交通事故の後遺症で、数学の難しい公式を覚えていても日常生活では80分しか記憶がもたない数学博士と、その世話をする家政婦と息子(10歳)との暖かい交流の物語です。 原作は第1回本屋大賞の小説です。

私は小学生のときに、ふざけていてコンクリートの廊下に強く頭を打ち、生死の瀬戸際を体験しました。その後遺症なのか、もって生まれた特性なのか、自分の記憶力が極端に弱いことを自覚しています。なので、家政婦の親子の心情を読みつつも、博士が幸せを感じているかが気になった作品です。 本も映画も泣きました。

○博士の愛した数式 (CD：ラジオドラマ) CAST 柄本明 中嶋朋子

家では自分が買った本が見つからず、ネット販売では電子書籍ばかりでした。その代わりに、ラジオドラマの CD を見つけて購入しました。 尚、学校の図書館には書籍があります。